

「自ら課題を見付け、友達と協働して解決していこうとする児童の育成」

—めあてを達成するための適切な話型を活用して授業改善を図る—

高学年分科会

1 研究主題にせまるために

国語科「書くこと」において、3年生では本で調べたり、観察したり、人から話を聞いたりして分かったことを知らせる学習を経験している。4年生では新聞全体のテーマを決め、複数の記事を作って編集する学習をしてきた。

本単元では、こうした経験をさらに発展させて、身の回りのユニバーサルデザインについて、多様な情報源から得た情報を整理しながら、報告する文章を書く。しかし、ユニバーサルデザインは身の回りで多く見られるが、日常的になっているがゆえに、意識しないと見付けられないという側面もある。そこで、授業で見付けたユニバーサルデザインの目的や工夫を考えさせることで、意識的に対象物と向き合い、改めて調べたいと意欲がもてるのではないかと考えた。

また、児童同士の協同的な学びとして、ユニバーサルデザインの価値を伝えるという、達成に向けての共通の課題を設定した。今回の学習では、それぞれが見付けてきた物事について意見を出し合うことで、自分では気付かなかった視点に気付ける話し合いの場も設定している。社会生活に関する題材を取り上げた本単元では、調査によって分かる専門家の考えや最新の知見を手掛かりに、よりよい社会を目指して思いや願いが込められていたり、作られていたりする。自身の調査や話し合いの中でそのことに気付かせることができれば、児童の見方や考え方に新しい観点が芽生え、日常生活においても多角的な視野で物事を考えることができるようになると思われた。

2 目指す児童像

○友達に分かりやすく伝えたり、友達の考えを受け止めたりして、学びを深め合う子

○学んだことを日常の生活や他教科に活用しようとする子

3 授業の視点及び手立て

視点1 主体的・対話的で深い学びを実現するための言語環境の整備・言語活動の充実

○話型に沿って順序立てて説明することができたか。

(そのための手立て)

- ・説明時に使用する話型を示す。
- ・説明されたことに対し、「質問」「知っていること」「経験したこと」など話題を示す。

視点2 協同的な学びの充実に向けた学習活動の工夫

○学習の見通しをもち、学習課題を設定することができたか。

(そのための手立て)

- ・話し合う場を設定し、提示された内容に対して新たな情報や見方が加えられるようにする。

視点3 情報機器の効果的な利活用

○具体的な様子を提示し、特性を理解することができる。

(そのための手立て)

- ・見付けたものは双方向授業支援アプリ（ロイロノート）で写真に撮って見せる。
- ・双方向授業支援アプリ（ロイロノート）の共有ノートを使って、全体で見合うことができるようにする。